

1、アマゴは如何

溪流魚の王といえば「アユ=香魚」で、清水でも興津川が有名。関西では琵琶湖が知られていて、スーパーにも沢山に出回っている。ところで『溪流の妖精』アマゴは如何であろう。溪流釣りの人は堪能しているのだろうが、私は食したことがない。そのアマゴを養殖している所が奈良県にある。桜で知られる吉野の南の黒滝村・野迫川・天川・川上といった村で、昭和44年ころから養殖に成功して放流をしているとのこと。

アマゴは塩焼きにすると骨も腸もそのまま食べられ、野性味と素朴な深みが味わえられる。黒滝村では「けんずい=間水」といって食間にお粥とアマゴを食べていたそうだ。

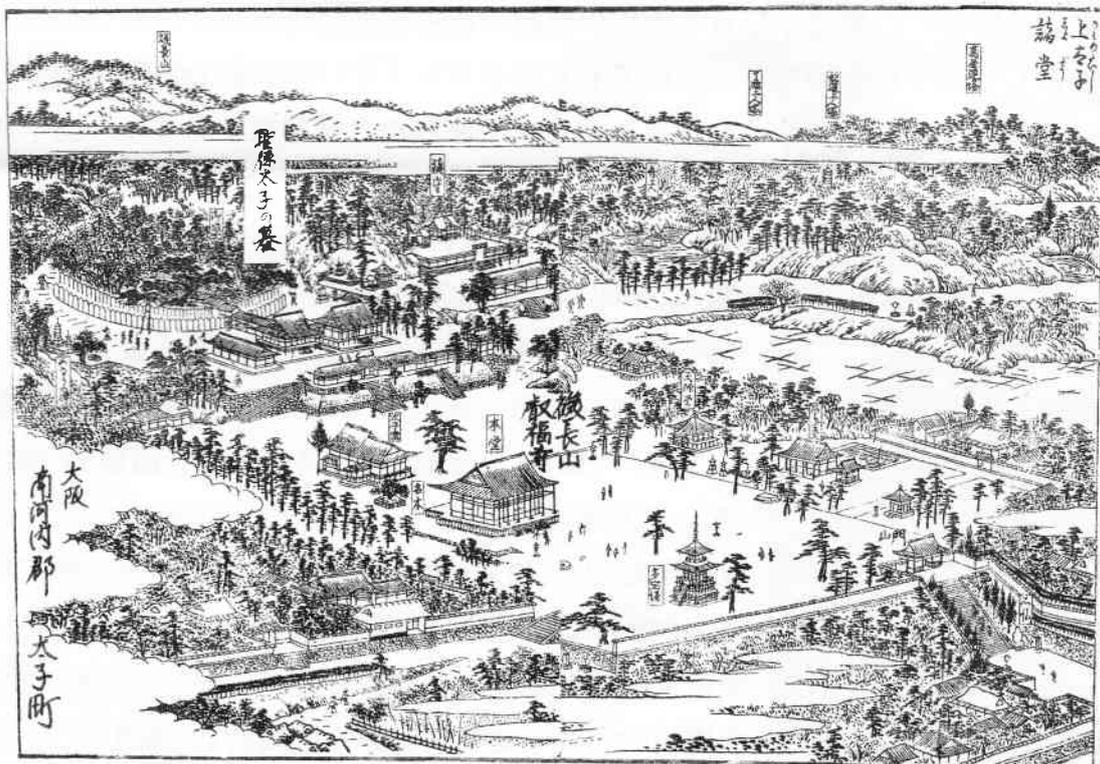
奈良南部から紀伊熊野の交通は今一だが、山と清流、それに豊富な温泉。アマゴは天下一品の味となる。 問合せ=黒滝村森の交流館 0747-62-2770 県漁協 0742-22-1410

2、すれ違いの話

別の人の話だが、関東の中学校の関係者に来てもらい「多様化する修学旅行に奈良県を利用して欲しい」と意見を聞いたところ「奈良県には利用したい素晴らしい所が多いが、移動に時間がかかり、安全性に不安がある」ということになった。これに対する奈良側の回答は「奈良は日本の源流。感性に訴えるプランを作りたい」だったという。過去に何度も生徒を引率した経験のある私からみると、すれ違いの回答に思われる。

3、聖徳太子の墓所 上の太子:

是非、にお越しください。



4、新聞の読者文芸から

大声の般若心経 暑さ逃げ
逃げ水の行き着く先や朱雀門
駆け抜けし 昭和の後の原爆忌
風鈴の挽歌のごとき調べかな
満月をバケツに汲んでおきました
交差点 子鹿と共に渡りたり

サングラス外して 古都の色の冴え
歴史ある川も 汚れて魚住まず
善人も悪人も汲む 滝の水
水打てば 歌い尽きたる蝉むくろ
ワテラさえ安全なればと大文字
また来ると言わず ツバメは飛び去れり

5、温泉風景

ここ何十年も、風呂といえば自宅の内湯だったが、その前を思い起こせば、外湯・つまり銭湯がかなり長かった。父の話を聞きながら濡れたタオルをクルクル回して帰った子ども時代の夜の道。入湯料12円をアルバイトで稼ぎ、友と歩いた高校時代の京都は洛北の小路の湯。貰い湯時代もあり、家に風呂が備え付けられたのはずっと後のことである。

今回、転居した家に内湯があるが、専ら利用するのは外湯である。意外に思われるほど奈良には天然温泉が多く、私は①斑鳩 ②平群温泉 ③平城京温泉の三カ所を利用させてもらっている。いずれも広い浴槽と湯量があり、畳の休憩所もあって食事が可能である。

こうした所には牢名主ならぬ風呂名主がいるもので、「あんたどこから来なされた？」から始まり、名主の過去の遍歴を拝聴せねばならず、一度捕まると逃げるに苦労する。大体、この手の人は自分のことを吹聴するのが主目的なので、会話にはならない。

6、斑鳩の彼氏 (奈良灯花会で出会った柿渋塗りの紙細工の人の話)

清水ですか。清水にはよく行きましたよ。日本平や駅の東口の「クラフト展覧市」です。清水は明るく自由な町だと感じています。私の家は斑鳩ですけど、仕事は他所でしています。うちの地区を一口で言うなら「千年の伝統に座って動こうとしない」でしょう。何かをやろうとしても「まあ待て」「急いでもドモナラン」といい、最も苦手なのは他人との協調で、結局は「メンドクサイ」「シンドイ」で終わりとなります。

7、なんと読むか？

東名・名神 は読めても、阪和・京奈和 は、私には「ハンワ・はんな」「きょうなわ・ケイナカ」などといろいろに読めて怪しい。大和を「やまと・ダイワ」と言い分ける例もあり、地名・人名は多くの読み方がある。和泉、和太、和蘭なども知らねば読めない。

北部奈良を「北和」。南部奈良を「南和」と言うらしいが、「西和」は(ニシワ)か(サイワ)か(セイワ)か？ 混乱してしまう。

奈良には固有の読み方や地名が多い。人名にも珍しいものも多く、ボケた頭ではとても読めず、聞いても覚えられない。次の地名はナートヨームカ？ ()は答え。

今辻子(いまづし) 杉ヶ町(すぎがまち) 油留木(ゆるぎ) 野垣内(のがいと) 神殿(ことどの) 肘塚(かひづか) 小明(ごうみょう) 杏(からうめ) 樅本(いちのもと) 指柳(さしやなぎ) 杣之内(そまのうち) 穴闇(??) 国府(??) ヤーメタ。

8、エスカレーターの話

みなさんはエスカレーターでどちらに立ちますか？ 駆け登りや駆け下りをしますか？

いずれも場所や朝・昼・夜などの時間帯、急ぎの状況、或いは年齢によって異なると思われるが、この2週間ほどの間で見かけた三様のエスカレーター風景。

①奈良(近鉄奈良駅) = 灯花会の行事開催中だったが、さほどに人出はない。人は右に立ち、混んでいないが駆け登る人がいる。JR奈良駅の外のエスカレーターは改装中だった。

②静岡(土日のJR静岡駅と松坂屋) = 混雑というほどでないが人出はある。左立ち。外人さんが子ども連れで来たので見ていたが、静岡人と同じ。駆け登る人はあまりいない。

③大阪(日曜JR大阪駅と伊勢丹) = しばらくぶりの大阪。オープンの時にも偶然にここを通過したが、大ドームもすっかり落ち着いている。北側の伊勢丹の10階まで登って行った。周辺の通路との関係だろうがエレベーターは手前乗りと向こう乗りとの二つで、鉄道なら複々線といった感じ。大勢の人が乗っていてほとんどが左立ち。右が空いていても駆け登る人は多くない。

目指した10階レストラン街には数え切れない食堂が並び、いずれも店の前で順番待ちをしていてエスカレーターで隙間なく運ばれて来た人達がどこかへ吸い込まれて行く。

私は食の好みよりも待ち人の少ない店を選んで並んだ。しかし、出て来た食事は食い道楽の大阪らしい美味。値段も立派。大阪は商都・活力ある町と実感させられる。

(注)別調査では、エスカレーターの駆け登りは、東京25.2%に対して大阪35.0% 東京は右空けが多く、大阪は自分勝手に左右ばらばら。駆ける人は左右を擦り抜けて登ると言う。奈良人は大阪人に追従するというから、実態は私の目撃とは異なるかも知れぬ。

9、ホトトギス

この数日の奈良新聞の読者文芸欄にホトトギス(時鳥・子規・杜鵑・不如帰)の短歌や俳句が多い。

時鳥 畑仕事がかどらず

真夜中に ホトトギス鳴く 山の宿

ホトトギスはかなり特徴的に鳴くらしく「天辺駆けたか」「天辺禿げたか」「オトト恋シヤ」「特許許可局」などの、分かりやすい鳴き声表示が示されている。

新聞の読者(俳句提供者)の所在地を見れば、さほどに遠くない所にお住まいのように思う。拙宅付近は朝の4時半ころから鳥の声が聞こえるが、ホトトギスらしい鳴き声を聞いたことがなく、この斑鳩には居ないのかとチト寂しい。

図鑑には「夏鳥、高原や山の明るい林に住み、とまる時は葉の茂みに隠れるためその姿を見るのは難しいが、鳴きながら飛ぶので、姿を見るのは容易」とある。三室山や龍田公園にいるのかな？ 近くで飛んで、鳴いてほしい。



ホトトギスの飛翔

◎ホトトギス
Cuculus poliocephalus
全長27.5cm



10、 図書の悲しみ

斑鳩町の図書館で顔なじみの司書さんに、本を探してもらっていて次のような見聞をすることになってしまった。

係「あなたのお探しの本は本館にはありませんが、隣町の図書館にありますので、そちらへ行かれてはどうでしょう」 私「でも、隣町図書館は斑鳩の者には閲覧はさせても貸し出しはしてもらえないですよ」 係「そうなんです。元は近隣の図書館ではどこへ行っても貸借ができたのですが、閲覧者のモラルが低下してきた上に、予算が減少することになったため、同じ市町村の者以外には貸出をしなくなってきたのです。」「丁度ここに被害にあった本が来ているので見て下さい」

見ると、内部を切り取られた本、マジックでいたずら書きをした本などいろいろと被害を受けて図書館本の役に立たなくなったものがダンボール箱に何冊もある。

係「返却されない本も相当数あって困っています。新書の購入もままなりませんので、他の町村の人を締め出す苦しさもご理解ください」と。 聖徳太子も嘆いているぞ。

11、 大阪学について

上記のような訳で、閲覧したい本がないので、軽い気持ちで『大阪学』なる本を借りて来た。社会文明文化論といった感じの本だが、東京と比較して大阪を述べながら、大阪を最良にして自慢している本といえる。

まず、大阪は太閤秀吉以来の自由競争・町人の町・商業の町であり、才覚を發揮して人が行わないことを工夫して財を成すのを最高の人生目標、つまり『儲け』が大切とする。

最初に交通問題が提起されるが、大阪交通は儲けを念頭にして展開されているという。例えば青信号前に車が飛び出す。赤信号なのに突っ込んで来る。徐行指示があってもスピードは落とさない。駐車禁止などは無視するといったルール違反も『時は金なり』で『儲け』が第一義。ルールより即座の自己判断。摘発されるのは運が悪いとする。大阪警察も商売を認め優先させて、緩やかに取り締まるという。

なるほど、転居以来、私が感じて来た不愉快さは『儲け』のためかと一応の納得はする。しかし、交通事故は全国のワースト〇位にランクされ、老人は警笛で追い散らされ、児童の通学路が邪魔されるなど、弱者への労り不足の現実を無視することは良くないと思う。

交通モラルなどは念頭にないようで、安全な町造りや快適なモータリゼーションへの言及は見られない。商売の激戦地・大阪はともかくとして、歴史や文化を誇る奈良は穏やかな運転が望まれる。譲り合いが公共交通の眼目であり、急ぐ必要がない者までが騒音を撒き散らして急発進・急停車することはない。

☆ 広瀬の杉山和義君のご尽力で拙稿がURLに載せられるようになりました。

<http://sugiyama.or.tv/ikaruga/>